

ヨシナカ新聞

11月号

発行所
株式会社ヨシナカ
東京営業所
TEL:03-3555-0796

関東では通じない関西弁

20歳の頃、初めて東京に行き、立ち食いうどんを食べた関西人の私は、つゆの色に驚いて「けったいな色やなあ」と思わずつぶやいてしまいました。その時一緒にいた東京の方に「けったいって何?」と

聞かれてまたまた驚いてしまいました。『けったいな人びと』というテレビドラマがあったくらいなので、『けったい』は共通語と思っていた私が馬鹿だったのですが、今でも『けったい』は東京では通じにくいようです。そんな関東

では通じにくい関西弁を以下に取り上げてみました。関西人は自信をもって東京で使いましょう(笑)。

・さら(新品)、ほかす(捨てる)、なおす(片付ける)、めばちこ(ものもらい)、行きしな(行く途中)、お造り(刺身) 等々

年を取ると新しい音楽を受け入れられなくなるのは何故?

最近、聴く音楽のジャンルが決まって来ていることに気付き、違うのも聞いてみようかとチャレンジするのですが、落ち着かずに結局戻ってしまいます。特にラップやヒップホップに至っては聞くのが苦痛で耐えられなくなってしまいます(ごめんなさい)。

なぜ年齢を重ねた人はいつも同じような音楽を聴く一方で、新しい音楽には興味を持ってないのか、そして年齢を重ねたミュージシャンが「以前のように曲を作れない」と

言い出すのか、ノックス大学心理学教授のフランク・T・マカンドリュウ氏が学術系ニュースサイト・The Conversationで考察を披露しています。

一つは生物学的にコードやリズム、メロディの微妙な違いを聞き分ける能力が年齢とともに低下すること、音楽の好みは10代前半に固まりはじめ、20歳ごろに固まるので、この期間に耳にするヒット曲は同じ世代の中では一生人気が続く可能性が高い、一方、33歳になるころには新たな音楽を聴くことはほぼなくなるため、それ以降に新たに耳にし

た自分があまり知らない音楽はすべて同じように聞こえてしまっていることが考えられるそうです。

また年を取るにつれて、自由な時間が減少する為、時間が余っていたころに聴いていたお気に入りの曲を聴いてしまうことや、10代の頃に経験した感情は、10代以降に経験するものよりも強く感じるとい研究結果があることから、10代の頃に聴いた音楽ほど、強く記憶に残って愛するものになってしまうという可能性があるそうです。なるほどと納得してしまいました。

国営ひたち海浜公園

茨城県内における花の名所の1つで、4月頃のスイセン・チューリップ、5月頃のネモフィラ、10月頃のコキア(ホウキグサ)などの時期には多くの人が訪れるそうです。弊社東京営業所のN社員も今年何度か訪れたそうで、写真を提供してくれました。今回は説明は抜きにして写真を出来るだけ多く紹介させていただきます。



コキア・ライトアップ(撮影・夏)



コキア(撮影・6月)



ネモフィラ(撮影・5月)



コキア(撮影・夏)



コキア(撮影・秋)



ネモフィラ(花)
(撮影・5月)

ステンレス豆知識

イオン化傾向

「イオン化傾向」とは、水の中で単金属が金属結合から金属イオンとして出やすい順に並べたものです。

「貸(K)そうか(C a)な(N a)、ま(M g)あ(A l)当(Z n)て(F e)に(N i)す(S n)な(P b)ひ(H)ど(C

u)す(H g)ぎ(A g)る借(P t)金(A u)」

これはイオンになりやすい順に並べて、覚えやすくしたのですが、特に水素(H)よりもイオン化傾向が下(イオンになりやすい)の金属は、空気中の水分でイオン化して、空気中の酸素などと結びついて酸化物を作ろうとす

る金属です。これらを卑金属と言います。逆に金(A u)や銀(A g)などは貴な金属、「貴金属」と呼ばれています。

卑(いや)な金属は単体でもイオン化しようとはしますが、イオン化の違う金属を接触させると、イオン化の下位の金属はイオン化が促進されます。

(ステンレス協会HPより)